第２９回（令和５年度第１回）
セーフコミュニティ 児童虐待防止対策委員会

《会　議　次　第》

日時：令和５年４月１９日(水)　１４：００～
場所：久留米市役所　１６階会議室

１．開会

２．報告事項

令和 5 年度の主なスケジュールについて　・・・P2

３．協議事項

（１）2022(令和 4)年度実績及び 2023(令和 5)年度方針（案）について・・・P3～P7

（２）３回目の認証取得に向けた本審査について

①現地審査スケジュール・活動視察　・・・P8

②申請書　・・・P9～P16

③プレゼン資料　・・・(別紙)

４．その他

合同対策委員会の報告　・・・(別紙)

５．閉会

児童虐待防止対策委員会

対策委員会委員名簿　（順不同、敬称略） 任期：R7.7.31まで

	団体等名称	役職	委員名
1	NPO法人　ル・バトー	代表理事	吉岡　マサヨ
2	久留米市民生委員児童委員協議会	主任児童委員部会長	佐田　典子
3	久留米市私立幼稚園協会	教育研究委員 （久留米天使こども園　園長）	早川　成
4	一般社団法人　久留米市保育協会	企画研修委員 （ゆりかご保育園　園長）	古賀　誠司
5	NPO法人　にじいろCAP	代表理事	重永　侑紀
6	NPO法人　子育て支援ボランティアくるるんるん	理事	麻生　睦美
7	久留米市小・中学校PTA連合協議会	家庭教育委員	河津　季仁子
8	久留米市校区まちづくり連絡協議会	幹事（田主丸校区まちづくり振興会会長）	緒方　浩一
9	福岡県久留米児童相談所	相談第一課長	服部　洋明
10	久留米警察署	少年課長	西川　琢也
11	久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター	所長	清水　知子
12	久留米市子ども未来部子ども政策課	課長	椛島　真弥
13	久留米市子ども未来部家庭子ども相談課	総合支援拠点担当主幹	野口　晶子
14	久留米市教育部学校教育課	課長	田中　浩之

事務局：子ども未来部家庭子ども相談課

令和５年度年間スケジュール（案）

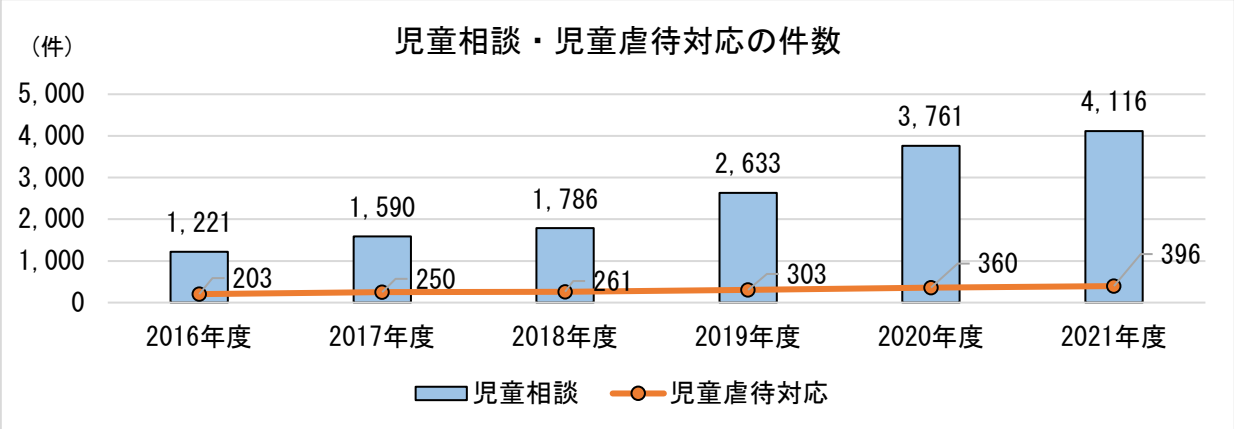
業　務	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
SC推進組織			●①本部会議 ●①調整会議	●①5/30 推進協議会 ・R4実績R5方針 ・本審査に向けて ・プレ資料 ・申請書	現地審査	（本番） ②推進協議会				認証式及びフェスタ				
対策委員会		①対策委員会 ・R4実績R5方針 ・本審査に向けて ・プレ資料 ・申請書			●7月本番直前 委員長リハ	（本番） ②対策委員会					③対策委員会 ・講評を踏まえた対応 ・取組推進に向けた協議 など			
外傷等動向調査委員会		①外傷委員会 ・本審査について ・プレ資料 ・申請書			●7月本番直前 委員長リハ	（本番） ②外傷委員会								
啓発		シリーズ6（DV） 4/21 YouTube 5/1 広報久留米 5/21 SC通信		シリーズ7（児虐） 6/21 YouTube 7/1 広報久留米 7/21 SC通信 SC標語募集		シリーズ8（学校） 8/21 YouTube 9/1 広報久留米 9/21 SC通信 8/4水の祭典		シリーズ9（高齢者） 10/21 YouTube 10/1 広報久留米 10/21 SC通信		●SC標語表彰式	1/1 広報久留米 （認証取得）			
申請書	3月 [各事務局] ・加筆修正	JISCとの調整期間 4月末 日本語版 確定	5月 英訳	6月 申請書 提出										
プレゼン資料	[各事務局] ・加筆修正		JISCとの 調整期間 5月末 日本語版 確定	英訳	7月 日本語版・ 英訳版 完成									

2022 年度取り組み実績

児童虐待防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
児童虐待の防止	2-①	新生児訪問事業の地域連携
	2-②	赤ちゃんふれあい体験事業
	2-③	児童虐待防止啓発事業

ア．成果〈数値で表せるもの〉



※児童虐待や相談窓口の周知に伴い増加の見通し。児童虐待対応件数は長期での減少を目指す。

※2022 年度は集計中。

イ．成果〈数値で表せないもの〉

新生児訪問の地域連携

同行訪問ができた家庭は、その後、地域のコミュニティセンター等で行われている子育てサロンにも参加している。また、主任児童委員と顔見知りになることにより、子育て家庭と地域をつなぎ、子育て家庭の孤立を防いでいる。

ウ．2022 年度の取組で最も成功した事例

子どもの権利や児童虐待に関する地域、民間団体、学校と連携した取組

市立小学校の４年生及び特別支援学校の児童・生徒を対象に、子ども自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成を図るための授業を実施した。併せて、地域・教職員・保護者が一体となり地域全体で子育て支援や虐待予防に取り組むことができるよう、教職員向けの研修や地域向けの研修も行った。この取組により、子どもの権利や児童虐待防止の認識向上につながり、子ども自身からの相談も見られるようになった。

エ．2022 年度で最も積極的に取り組んだ活動

街頭キャンペーンや子育て応援動画など広く市民に向けた啓発活動

２年ぶりに、毎年１１月の「児童虐待防止推進月間」に合わせた街頭キャンペーンで、関係機関と連携してオレンジリボンや啓発チラシ等を配布し、児童虐待防止の認識向上を図った。また、委員でもある民間団体と協働で、保護者向けに子育て応援動画を毎月配信し、子育て家庭に寄り添った啓発活動を行った。

オ．分野横断的に行っていること

要保護児童対策地域協議会との連携

警察や児童相談所などの２２の関係団体で構成する要保護児童対策地域協議会の代表者会議や実務者会議等を通して、児童虐待防止の取り組みを行っている。

カ．今後の方向性や取り組みを進める上での課題

事業の効果的・効率的な実施における課題

短期、中期、長期指標について、児童虐待防止という成果がこれらの指標に示された数字だけでは図れない部分があり、事業の効果を実証するのが難しい。

2023 年度取り組み方針

児童虐待防止対策委員会

具体的施策		2023 年度取り組み方針
2-①	新生児訪問事業の地域連携	**新生児家庭への同行訪問の実施** 民生委員児童委員協議会の主任児童委員部会と市（こども子育てサポートセンター）で協議を行いながら、校区を拡大し、同行訪問を実施する。
2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	**「赤ちゃんふれあい体験事業」の実施** 地域と学校と対策委員会で連携し、可能な範囲で実施する。
2-③	児童虐待防止啓発事業	**児童虐待防止と相談窓口のさらなる周知** より多くの市民に児童虐待防止の認識と子育てに関する相談窓口等を周知するため、効果的な啓発方法を検討する。併せて、子ども自らの相談する力等を育成するための授業を継続するとともに、保護者や地域に向けた啓発を強化する。

【児童虐待防止】2－①新生児訪問事業の地域連携

課題	客観的課題	・地域で子育て家庭が孤立している ・虐待者の約 60%が実母である
	主観的課題	・子育てに困難を感じながらも、相談できる人がいない人が存在している ・子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している
目標		地域で気軽に相談できる体制作り
内容		市が行っている「新生児訪問事業」の地域連携として、各地域の住民の一人でもある主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ。
対象者		子育て中の家庭の母親
実施者		市（こども子育てサポートセンター)、主任児童委員
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が同行訪問する
2022 年度の実績及び改善した点等		・市内４校区（荘島、小森野、金島、津福）において、市が行っている「新生児訪問事業」に主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ取組を行った。また、育児支援者不足のハイリスクケース家庭等にも同行訪問を行った。 ・実施校区拡大のため、主任児童委員正副ブロック長会において取組の説明を行った。
2023 年度の方針及び課題等		民生委員児童委員協議会の主任児童委員部会、市（こども子育てサポートセンター）と協議を行いながら、校区を拡大し、同行訪問を実施する。

指標	内容	単位		2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	主任児童委員による妊産婦や子育て家庭への家庭訪問件数	件		14	48	31	27	35
【短期】認識・知識	子育てに関する相談窓口の認知度［セーフコミュニティ実態調査］	%		2021 年度より実施			59.6	－
【中期】態度・行動	子育てに困難を感じることがよくある人のうち、相談していない人の割合［セーフコミュニティ実態調査］	%		2021 年度より実施			9.4	－
【長期】状況	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数） ※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,786	2,633	3,761	4,116	集計中
			②	261	303	360	396	集計中

【児童虐待防止】 2－② 赤ちゃんふれあい体験事業

課題	客観的課題	親になるための教育が十分でないと感じている保護者が 30%近くいる
	主観的課題	核家族化や地域とのつながりの希薄化などの影響により、大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している
目標		命の大切さを学ぶ教育の支援
内容		将来、親になる中学生に乳幼児とのふれあいや子育て体験をしてもらう
対象者		中学生、2015 年度から小学生にも対象拡大
実施者		各校区のすくすく子育て委員会
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が実施している
2022 年度の実績及び改善した点等		地域・小中学校・市との協働で実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、乳幼児とのふれあい（子育てサロンの出前）は中止し、赤ちゃん人形を使った抱っこ体験などを行った。 ［中学校］実施予定７校 ・田主丸中学校：９月１日、２日　・江南中学校　：９月７日、１３日 ・明星中学校　：９月２７日 ・良山中学校　：講話のみ　１０月２１日、２２日 ・青陵中学校　：中止　・宮ノ陣中学校：中止（保育園と連携） ・三潴中学校　：７月（久留米大学と連携） ［小学校］実施予定２校　・荘島小学校　：１１月１５日　・小森野小学校：中止
2023 年度の方針及び課題等		地域と学校と対策委員会で連携し、可能な範囲で実施する。

指標	内容	単位		2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	赤ちゃんふれあい体験・保育体験等の実施学校数	校		9	8	未実施	未実施	6
【短期】認識・知識	命の大切さについての認識の向上［参加者アンケート］	%		92.5	96.4	未実施	未実施	98.2
【中期】態度・行動	赤ちゃんふれあい体験等の新規実施校数	校		2	1	0	0	0
【長期】状況	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数） ※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,786	2,633	3,761	4,116	集計中
			②	261	303	360	396	集計中

【児童虐待防止】２－③ 児童虐待防止啓発事業

課題	客観的課題	・虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である ・子ども自身からの相談が少ない
	主観的課題	・子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない
目標		子ども自身から相談できる体制づくり
内容		・啓発活動（オレンジリボンの作製、街頭キャンペーン） ・児童虐待防止の講演会の実施 ・子ども自ら相談する力の育成
対象者		一般市民
実施者		主に久留米市要保護児童対策地域協議会
対策委員会の関わり		対策委員会の構成メンバーと連携した啓発活動等の実施
2023年度の実績及び改善した点等		・出生届時の予防接種セットと一緒に、児童虐待防止の啓発チラシと警察署が作成した面前ＤＶ防止の啓発チラシを配布。 ・市立小学校の４年生及び特別支援学校の児童・生徒を対象に、子ども自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成を図るための授業を実施。併せて、教職員向けに研修や地域向けの研修も実施。 ・令和４年６月から、保護者向けに子育て応援動画を毎月配信。 ・毎年１１月の「児童虐待防止推進月間」に合わせて街頭キャンペーンを実施し、ゆめタウン久留米と農業まつり（久留米百年公園）でオレンジリボンや啓発チラシ等を配布。 ・令和５年１月と２月に、委員でもある関連の官民団体との協働で連続講座を開催。
2023年度の方針及び課題等		より多くの市民に児童虐待防止の認識と子育てに関する相談窓口等を周知するため、効果的な啓発方法を検討する。併せて、子ども自らの相談する力等を育成するための授業を継続するとともに、保護者や地域に向けた啓発を強化する。

指標	内容	単位		2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	イベントや講習会等の参加者数	人		956	890	中止	327	431
【短期】認識・知識	子どもの権利や児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数]	枚		－	3,095	3,890	6,686	8,717
【中期】態度・行動	子どもの権利のや児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数] ※短期指標と同じ。今後子どもへの啓発事業等が進めば見直す予定。	枚		－	3,095	3,890	6,686	8,717
【長期】状況	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数） ※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,786	2,633	3,761	4,116	集計中
			②	261	303	360	396	集計中

3. 協議事項(2) ①

久留米市セーフコミュニティ現地審査 スケジュール（案）

場所：久留米シティプラザ大会議室

R5.4.13時点

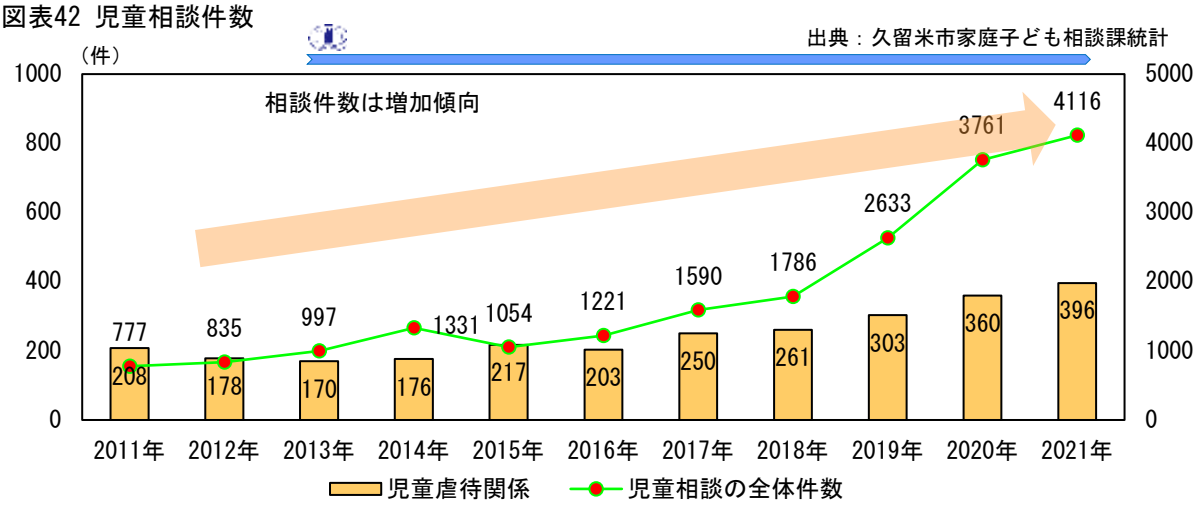
	7月31日（月）	8月1日（火）
9:00	**全体概要** 〈9:00～10:00〉	**⑤交通安全対策委員会** 〈9:00～10:00〉
10:00	**外傷等動向調査委員会** 〈10:15～11:15〉	**⑥防犯対策委員会** 〈10:15～11:15〉
11:00		
12:00	**①児童虐待防止対策委員会** 〈11:30～12:30〉	**⑦ＤＶ防止対策委員会** 〈11:30～12:30〉
13:00	昼食	昼食
14:00	**市内視察**〈90分〉 ※移動含む	**⑧自殺予防対策委員会** 〈14:00～15:00〉
15:00	**②防災対策委員会** 〈15:00～16:00〉	審査員ミーティング 〈15:10～15:50〉
16:00	**③学校安全対策委員会** 〈16:15～17:15〉	**審査員講評** 〈16:00～17:00〉
17:00		
18:00	**④高齢者の安全対策委員会** 〈17:30～18:30〉	

⑥個別データ

(1) 児童相談件数の推移

久留米市の児童相談件数及び児童虐待に関する相談件数は増加傾向にあります。

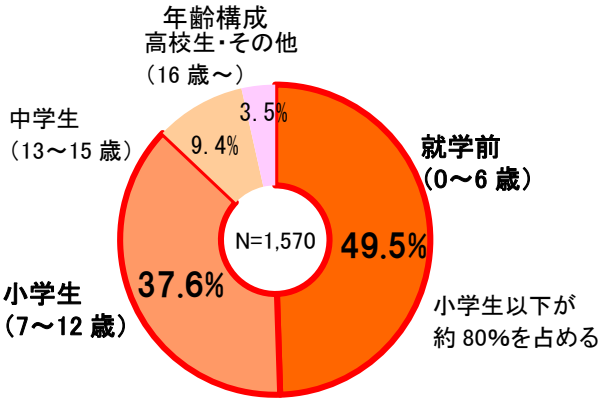
図表42 児童相談件数



(2) 虐待を受けた子どもの年齢構成、虐待者の状況、虐待の種類

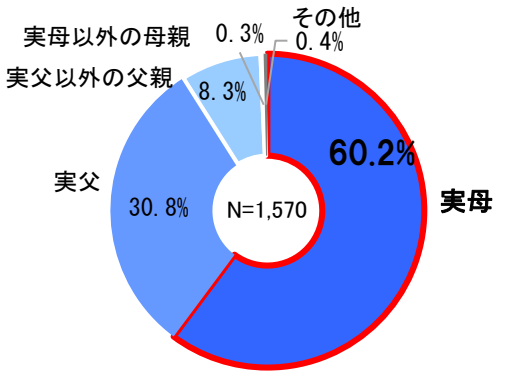
虐待を受けた子どもの年齢構成は、0～6 歳までの就学前の児童が全体の 49.5%を占め最も多く、小学生と合わせると全体の 87.1%を占めます。虐待者の状況は、実母が全体の 60.2%を占めており、虐待の種類は、心理的虐待が最も多く、全体の 43.9%を占めます。

図表43 虐待を受けた子どもの年齢構成



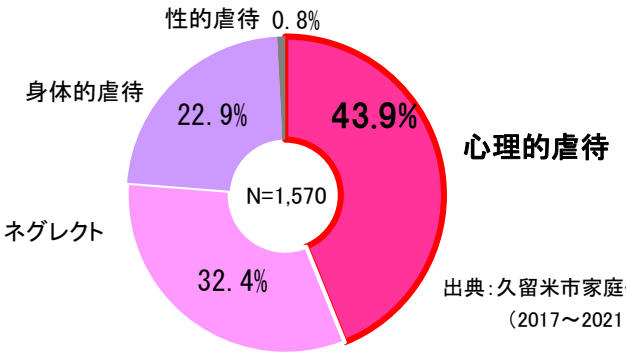
出典：久留米市家庭子ども相談課統計
（2017～2021 年までの 5 年間）

図表44 虐待者の状況



出典：久留米市家庭子ども相談課統計
（2017～2021 年までの 5 年間）

図表45 虐待の種類別対応件数



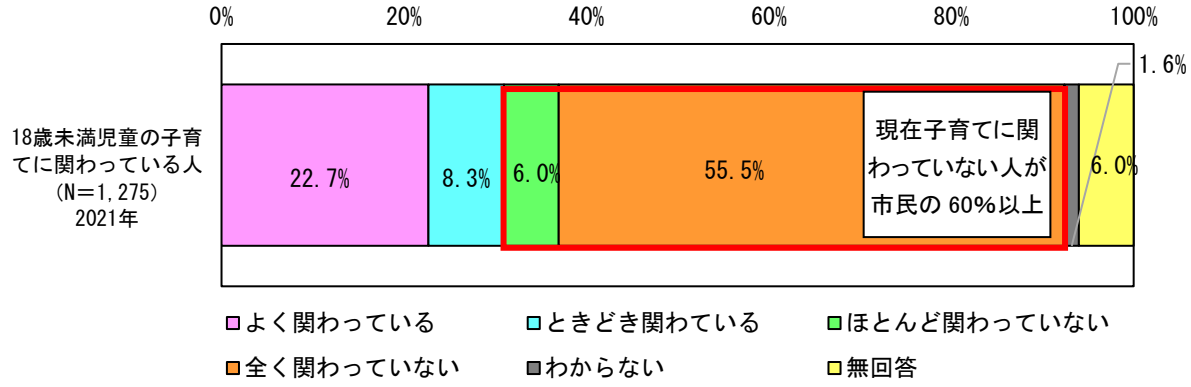
出典：久留米市家庭子ども相談課統計
（2017～2021 年までの 5 年間）

（２）児童虐待防止対策委員会

久留米市では、ハイリスクグループのひとつに「虐待を受ける子ども」を設定して、児童虐待の防止に取り組んでおり、その状況を見ると、虐待を受けた子どもは「小学生以下」が全体の87.1%を占め、その虐待者は60.2%が「実母」、虐待の種類では「心理的虐待」が43.9%と最も多いという状況です。【図表43】【図表44】【図表45】

市民の現在の子育ての関与状況については、少子化や核家族化等の影響もあり、「よく関わっている」人が22.7%、「ときどき関わっている」人が8.3%、「ほとんど関わっていない」人が6.0%、「全く関わっていない」人が55.5%となっており、60%以上の人が子育てに関わっていないという状況です。

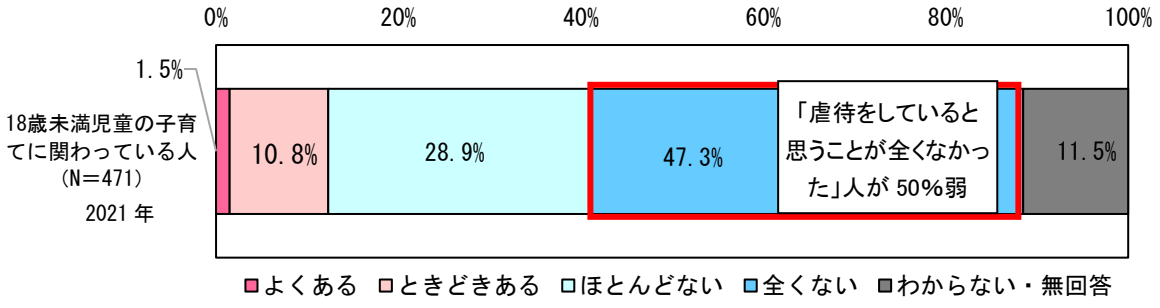
図表71 現在の子育ての関与状況　　出典：SC実態調査（2021）



（「現在18歳未満の子どもの子育てに関わっているか」についてアンケート）

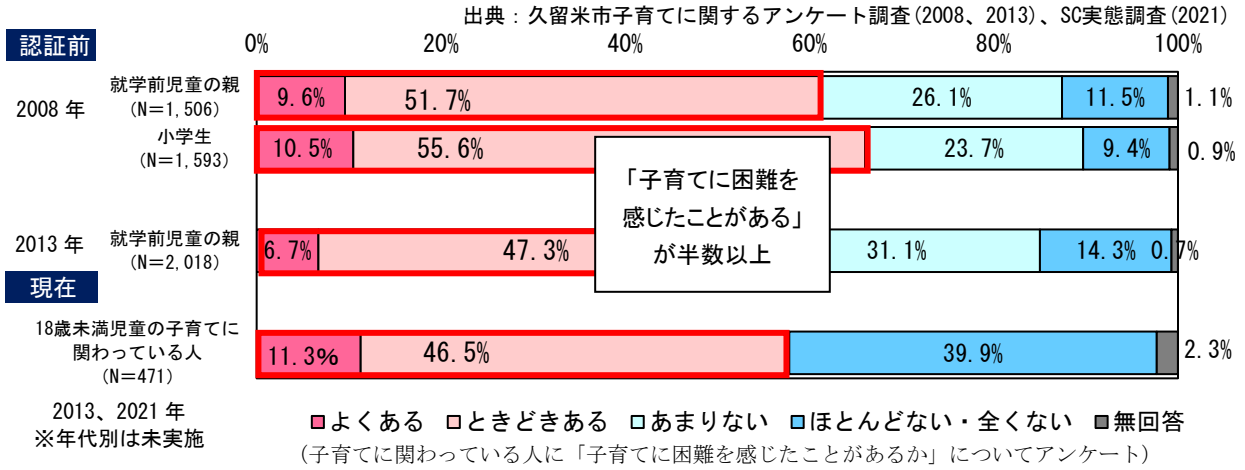
また、子育てに関わっている人の50%弱が「児童虐待していると思うことが全くなかった」という一方、子育てに関わっている人の半数以上が「子育てに困難を感じたことがある」という状況です。

図表72 「児童虐待しているのではないかと思った経験」　　出典：SC実態調査(2021)



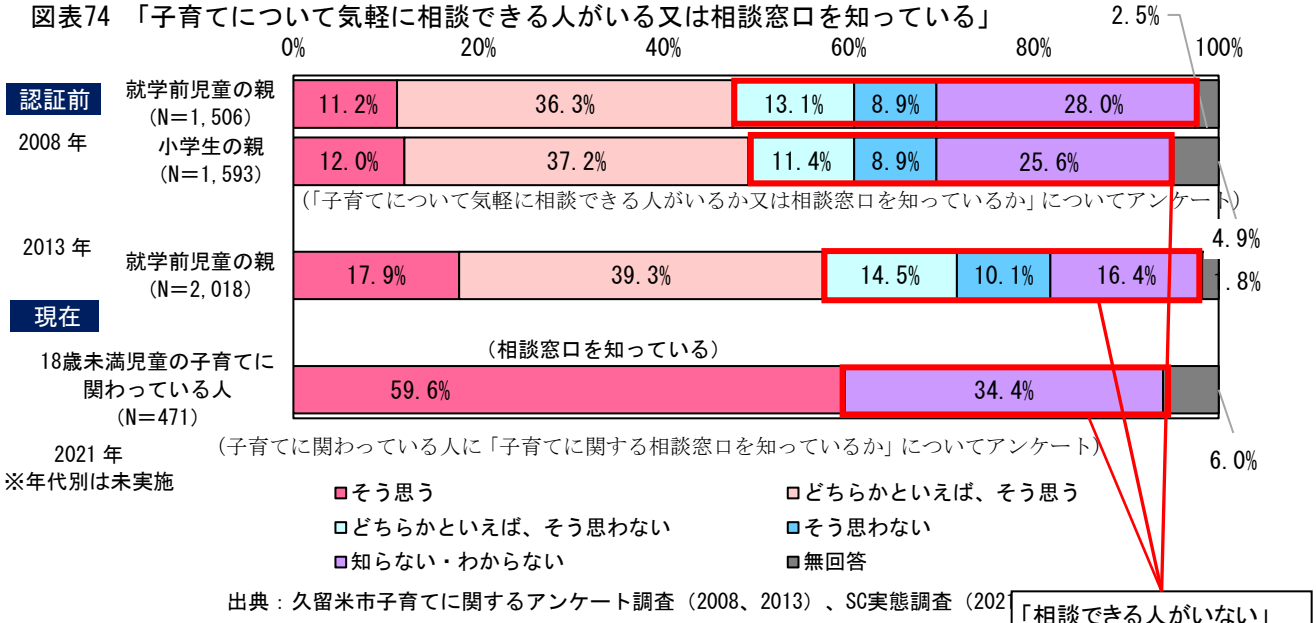
（子育てに関わっている人に「児童虐待しているのではないかと思うことがあるか」についてアンケート）

図表73 「子育てに困難を感じた経験」



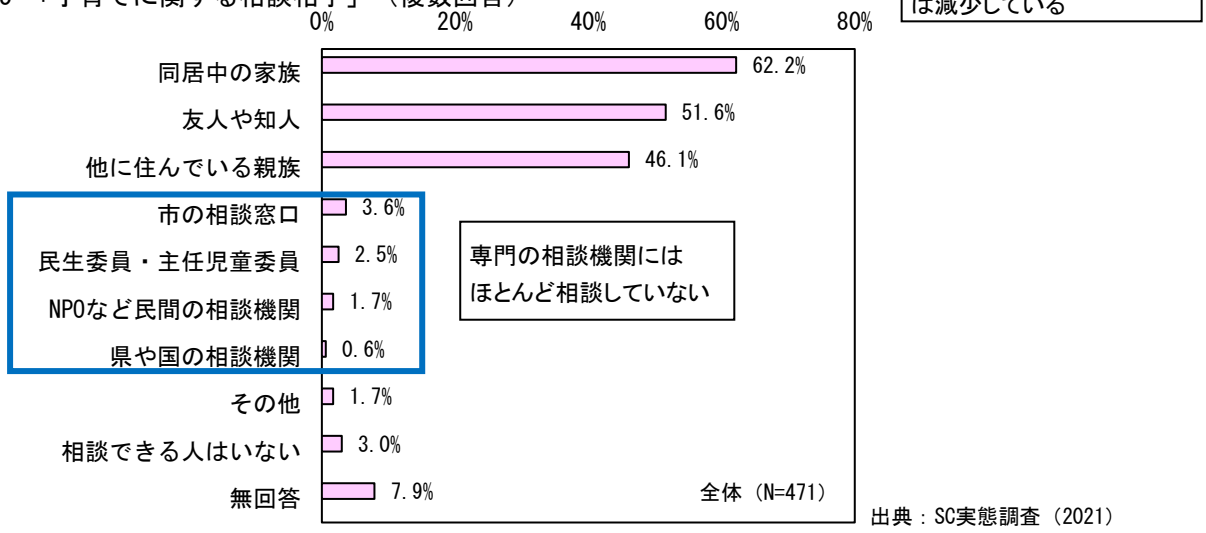
そのような中、子育てに関わっている人の 34.4%が「相談窓口を知らない・わからない」と回答しており、また、子育てに関する相談相手として、大半の人が家族や親族や、友人・知人を挙げ、行政や専門の機関にはほとんど相談していない状況です。

図表74 「子育てについて気軽に相談できる人がいる又は相談窓口を知っている」



出典：久留米市子育てに関するアンケート調査（2008、2013）、SC実態調査（202

図表75 「子育てに関する相談相手」（複数回答）

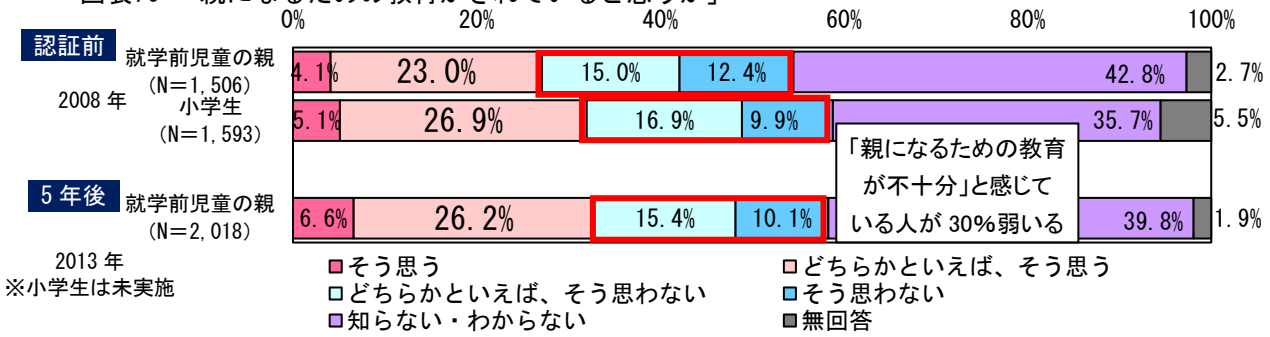


出典：SC実態調査（2021）

(子育てに関わっている人に「子育てに関して相談できる人はいるか」についてアンケート)

認証前や取組当初、「次世代の親になるための教育が十分でないと感じている」保護者が 30%近くいました。現在は生き方の多様性という観点から、この項目についてアンケートはとっていません。

図表76 「親になるための教育がされていると思うか」



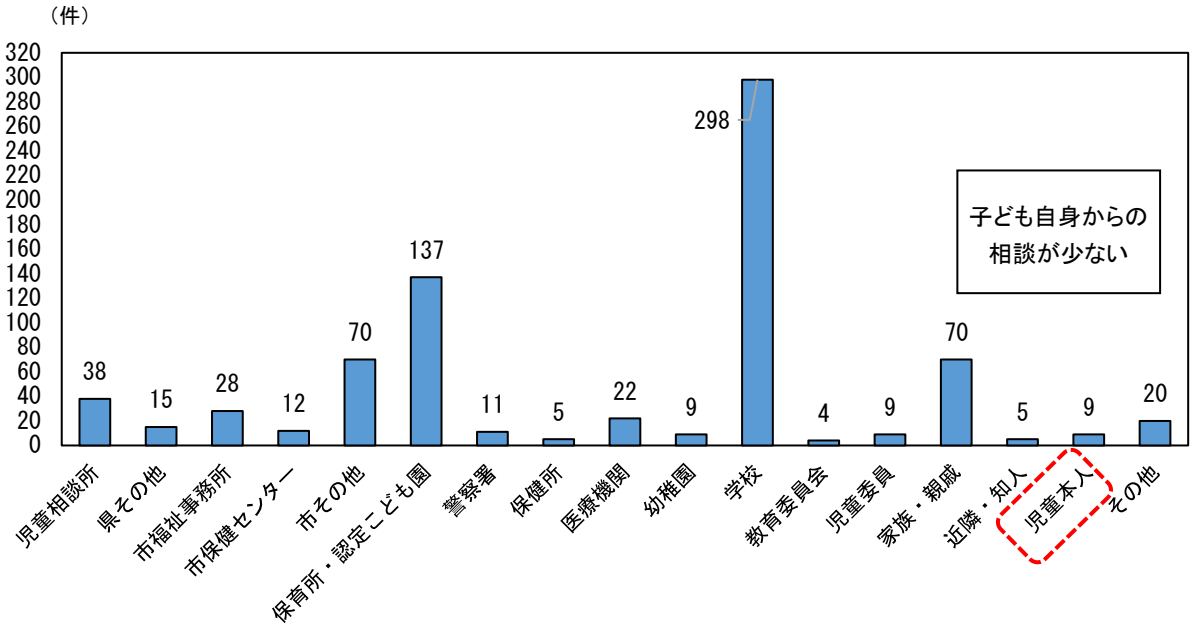
（就学前児童・小学生の保護者に「次世代の親になるための教育がされていると思うか」についてアンケート）

出典：久留米市次世代育成支援に関するニーズ調査

虐待相談の新規受付件数を経路別に見ると、学校や保育所からの相談が多く、子ども自身からの相談はほとんどありませんでしたが、2021 年度から少しずつ出てきた状況です。

図表77 経路別虐待相談受付件数

N=762



出典：久留米市家庭子ども相談課統計（2017～2021年までの5年間）

課題解決に向けた方向性と取組の整理

重点項目			課題	方向性	No.	取組（5 年前）		No.	取組（現在）
児童虐待防止	①	客観的	地域で子育て家庭が孤立化している【図表 4、5】	地域で気軽に相談できる体制づくり	1	新生児訪問事業の地域連携	⇒継続	1	新生児訪問事業の地域連携 [対応する課題:①②③④]
	②		虐待者の約60%が実母である【図表 44】						
	③	主観的	子育てに困難を感じながらも、相談できる人がいない人が存在している【図表 73、74、75】						
	④		子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している【図表 74】						
	⑤	客観的	親になるための教育が十分でないと感じている保護者が 30%近くいる【図表 76】	命の大切さを学ぶ教育支援	2	赤ちゃんふれあい体験事業	⇒継続	2	赤ちゃんふれあい体験事業 [対応する課題:⑤⑥]
	⑥	主観的	核家族化や地域とのつながりの希薄化などの影響により、大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している						
	⑦	客観的	虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である【図表 43】	子ども自身から相談できる体制づくり	3	児童虐待防止啓発事業	⇒継続（一部拡充）	3	児童虐待防止啓発事業 [対応する課題:⑦⑧⑨
	⑧		子ども自身からの相談が少ない【図表 77】						
	⑨	主観的	子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない						

【児童虐待防止】 2－① 新生児訪問事業の地域連携

課題	客観的課題	・地域で子育て家庭が孤立している ・虐待者の約 60%が実母である
	主観的課題	・子育てに困難を感じながらも、相談できる人がいない人が存在している ・子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している
目標		地域で気軽に相談できる体制作り
内容		市が行っている「新生児訪問事業」の地域連携として、各地域の住民の一人でもある主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ。
対象者		子育て中の家庭の母親
実施者		市（こども子育てサポートセンター）、主任児童委員
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が同行訪問する
5 年間の活動内容		「新生児訪問事業」は、赤ちゃんが生まれて４ヶ月以内に、保健師等が家庭を訪問し、赤ちゃんの成長の様子を確認し、母親等から子育ての相談に応じる事業である。 2013 年度から、この事業に主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ取組を行った。具体的取組は次の 2 点。 ・子育てに不安や悩みを持つ保護者からの相談に対し、地域に住む住民の一人として同じ目線で、親子の心身状況や養育環境を把握し、安心して子育てができるような地域連携につなげる。 ・子育て中の保護者が、孤立しないように、校区コミュニティセンターなどで開催している「子育てサロン」等の情報を保護者に直接提供。 2020、2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主任児童委員の同行訪問件数は減少した。
質的成果		同行訪問ができた家庭は、その後、地域のコミュニティセンター等で行われている子育てサロンにも積極的に参加している。また、主任児童委員と顔見知りになることにより、子育て家庭と地域をつなぎ、子育て家庭の孤立を防いでいる。

指標		内容	単位		2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		主任児童委員による妊産婦や子育て家庭への家庭訪問件数	件		14	48	31	27	35
【短期】認識・知識	旧	子育てサロンの実施回数・参加者数	回・人		418 10,590	397 9,481			
	新	子育てに関する相談窓口の認知度［セーフコミュニティ実態調査］	%		見直し後⇒		－	59.6	－
【中期】態度・行動	旧	主任児童委員の同行訪問により子育てサロンにつながった割合	%		35.7	22.9			
	新	子育てに困難を感じることがよくある人のうち、相談していない人の割合［セーフコミュニティ実態調査］	%		見直し後⇒		－	9.4	－
【長期】状況	旧	子育てに困難を感じることがある割合［子育てに関するアンケート調査(5年毎)］	%						
	新	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数）※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,786	2,633	3,761	4,116	集計中
				②	261	303	360	396	集計中

【児童虐待防止】2－② 赤ちゃんふれあい体験事業　＜拡充＞

課題	客観的課題	親になるための教育が十分でないと感じている保護者が 30%近くいる
	主観的課題	核家族化や地域とのつながりの希薄化などの影響により、大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している
目標		命の大切さを学ぶ教育の支援
内容		将来、親になる中学生に乳幼児とのふれあいや子育て体験をしてもらう。
対象者		中学生、2015 年度から小学生にも対象拡大
実施者		各校区のすくすく子育て委員会
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が実施している
5 年間の活動内容		 「中学校への子育て出前サロン事業」として、市内 29 校区、またはサークルなどで実施している親と赤ちゃんが参加するサロン・交流事業を中学校で実施。母親から出産や子育てに関する話を聞き、赤ちゃんと触れ合う機会を提供することで、子ども自身に命の大切さや親への感謝、思いやりの心をはぐくみ、自尊感情の高揚を図った。 2020 年、2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、乳幼児とのふれあいは中止した。2022 年度は、助産師による命の講話、妊婦ジャケット着用による妊婦体験、赤ちゃん人形を使った抱っこやおむつ替え体験などを、学校や地域ができる範囲で実施した。
質的成果		中学生からは、「命の大切さを実感できた」などの声が聞かれ、期待していた効果が出ている。

指標		内容	単位		2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		赤ちゃんふれあい体験・保育体験等の実施学校数	校		9	8	未実施	未実施	6
【短期】認識・知識		命の大切さについての認識の向上［参加者アンケート］	%		92.5	96.4	未実施	未実施	98.2
【中期】態度・行動		赤ちゃんふれあい体験等の新規実施校数	校		2	1	0	0	0
【長期】状況	旧	虐待しているのではないかと思うことがある割合［子育てに関するアンケート調査(5 年毎)］	%						
	新	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数）※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,786	2,633	3,761	4,116	集計中
				②	261	303	360	396	集計中

【児童虐待防止】2－③ 児童虐待防止啓発事業		＜拡充＞
課題	客観的課題	・虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である ・子ども自身からの相談が少ない
	主観的課題	・子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない
目標		子ども自身から相談できる体制づくり
内容		・啓発活動（オレンジリボンの作製、街頭キャンペーン） ・児童虐待防止の講演会の実施 ・子ども自ら相談する力の育成［拡充］
対象者		一般市民
実施者		主に久留米市要保護児童対策地域協議会
対策委員会の関わり		対策委員会の構成メンバーと連携した啓発活動等の実施
5年間の活動内容		**児童虐待防止のシンボルマークであるオレンジリボンを作製** ・オレンジリボンを作製し関係機関と連携して配布することで、児童虐待防止への理解を深める。 **イベントや講演会なども含めたより効果的な啓発活動［拡充］** ・講演会は、委員でもある関連の官民団体との協働で、毎年度テーマを決めて開催。 ・街頭キャンペーンは、毎年11月の「児童虐待防止月間」に合わせ、駅やショッピングモールでオレンジリボン等を配布。2020、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、オレンジパープルツリーの設置や本庁舎のライトアップなどで啓発活動を行う。 ・警察署が主催した「面前ＤＶ防止」啓発に参加し、併せて相談窓口啓発カード等を配布。 ・出生届時の予防接種セットと一緒に啓発チラシを配布。 ・夏休み期間と11月の児童虐待防止月間に、保護者向けに子育て応援動画を配信。 **子ども自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成を図るための授業を実施［拡充］** ・市立小学校の４年生及び特別支援学校の児童・生徒を対象に、子ども自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成を図るための授業を実施。併せて、教職員向けに研修や地域向けの研修も行う。
質的成果		児童虐待防止の認識向上につながり、早い段階での相談により、関係機関と連携し早期発見・早期対応ができ、児童相談件数は増加している。子ども自身からの相談も見られるようになった。

指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標		イベントや講習会等の参加者数	人	956	890	中止	327	431
【短期】認識・知識	旧	子ども自身から発せられた情報・相談の件数	件	－				
	新	子どもの権利や児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数]	枚	見直し後⇒	3,095	3,890	6,686	8,717
【中期】態度・行動	旧	相談先の周知状況 [家庭子ども相談課への相談件数]	件	1,786	2,633			
	新	子どもの権利や児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数]	枚	見直し後⇒		3,890	6,686	8,717
【長期】状況	旧	虐待しているのではないかと思うことがある割合[子育てに関するアンケート調査(5年毎)]	%					
	新	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数）※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件 ①	1,786	2,633	3,761	4,116	集計中
			件 ②	261	303	360	396	集計中

※久留米市要保護児童対策地域協議会…**保護者のいない児童などの早期発見や適切な保護並びに関係する機関の連携による組織的・効果的な対応を図るために設置された組織。**